

『重金属4物質の削減に関する自主取組み』の進捗状況について

1. 経緯・まとめ

- (1) 1998年公表の「使用済み自動車リサイクルイニシアティブ自主行動計画」(1997年策定)に沿い、バッテリーを除く鉛の使用量を1996年実績である1850g/台から2000年末1/2(925g)以下、2005年末 1/3(617g)以下に段階的削減する事を目標に取り組んできた。
- (2) 2002年、自動車リサイクル法の法制化議論に際し、重金属削減の自主取組みとして、4物質(鉛・水銀・六価クロム・カドミウム)を対象に新目標を設定した。2019年発売の新型車(二輪車を含む)に対する実績まとめを表1. に示す。

2. 自主取組みの削減目標設定の考え方(2002年制定)

- (1) 世界でトップクラスの厳しい自主目標を設定(EU廃車指令と整合させる)。
- (2) 鉛は従来と同じ、削減量の分かり易い数値目標を設定。
- (3) 水銀、カドミウム、六価クロムは使用量を増やす事なく、時期を明示し使用禁止。
- (4) 対象車両は乗用車のみならず、EU廃車指令では対象外の大型商用車(トラック、バス)も含める。
- (5) 取り組みの状況を消費者に公表。

表1. 重金属4物質の削減目標と実績

削減物質	目 標	実 績 【対象: 2019年発売の新型車】
鉛	四輪車: 2006年1月以降1/10 以下 *1 (バッテリーは除く) ・但し、大型商用車は1/4以下 二輪車: 2006年1月以降60g以下 (210kg車重車)	全モデル 目標達成 対象モデル数: 【2019年1月～12月】 42モデル 【2020年1月～4月】 12モデル
水銀	2005年1月以降、以下の除外部品を除き使用禁止 交通安全の観点で使用する以下の部品は除外 (1)ナビゲーション等の液晶ディスプレイ (2)コンビネーションメーター (3)ディスチャージランプ (4)室内蛍光灯	全モデル 目標達成 －除外部品への対応－ (1)～(4)は、全モデルで水銀フリーを対応済
六価クロム	2008年1月以降、使用禁止	2019年発売の新型車の全モデルで目標達成 ※2017年発売の二輪新型車の2モデルで、目標未達成が判明(詳細次頁)
カドミウム	2007年1月以降、使用禁止	全モデル 目標達成

注1: 上記削減目標は新型車に適用。

注2: 大型商用車は車両総重量3.5ton超の商用車とする。

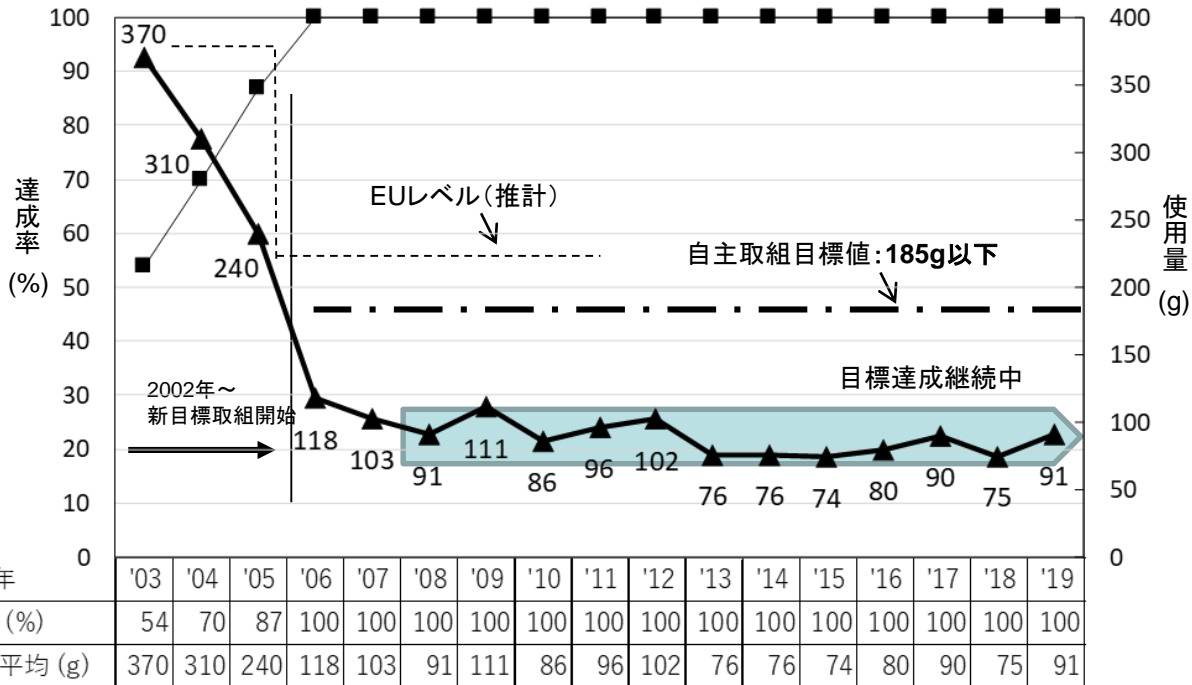
*1- 削減の基準量: 1850g/台(乗用車)
1996年の1台当たりの平均的な鉛使用量。
従って、2006年1月以降の目標値は185g/台以下

3. 対象4物質について取組み進捗状況のまとめ

(1) 鉛削減への取組み実績と課題

- ①2003年から鉛削減の新目標への取組みを進め、2006年以降継続して全モデルで目標を達成し、平均100g前後まで削減している。(実績推移は以下 図1の通り)
- ②引き続き、ハーネスと端子等の接合目的の一般的はんだなどの鉛フリー化を順次進めていくとともに、現状では技術的に対応できない部分(高融点はんだの鉛等)についても、削減にむけて関連部品業界と連携し技術開発を進めていく。

図1. 鉛使用量削減状況(乗用車平均)2003年～2019年(1～12月)推移



(2) 水銀・6価クロム・カドミウムの使用禁止

- ①水銀(除外部品除く)、6価クロム、カドミウムの使用禁止を、新型四輪車全モデルで達成している。2017年から国内で販売を開始したインドネシア生産の二輪車の2モデルにおいて6価クロムが使用されていることが発見された。現在、新車は6価クロムフリーの部品へ切替済み、既販車も部品回収・切り替えを進めている。
- ②現在、除外扱いしている水銀使用禁止部品について
 - ・新型車の全モデルで、液晶ディスプレイ・コンビネーションメーター・ディスチャージランプ・室内灯について、水銀フリー品を採用している。
 - ・今後も、新型モデルへの切替え等にて、水銀フリー化を進めていく。

4. 今後、『自主取組み達成状況』の公表について

- ・会員各社は、これまで同様新車カタログ、ホームページ、環境報告書、等を通じ、重金属4物質の削減をはじめ、燃費、排出ガス、リサイクル等、自動車に係わる環境取組みの状況を公表。
- ・また、自工会のホームページとリンクしている「車種別環境情報」にて、車種毎に各物質の使用部品や代替など自主取組みの状況を公開してきており、今後とも判り易い情報の公開に努めていく。

～以上～